

# 東京都障害者支援施設デジタル通信

令和4年3月 Vol.7 (最終)

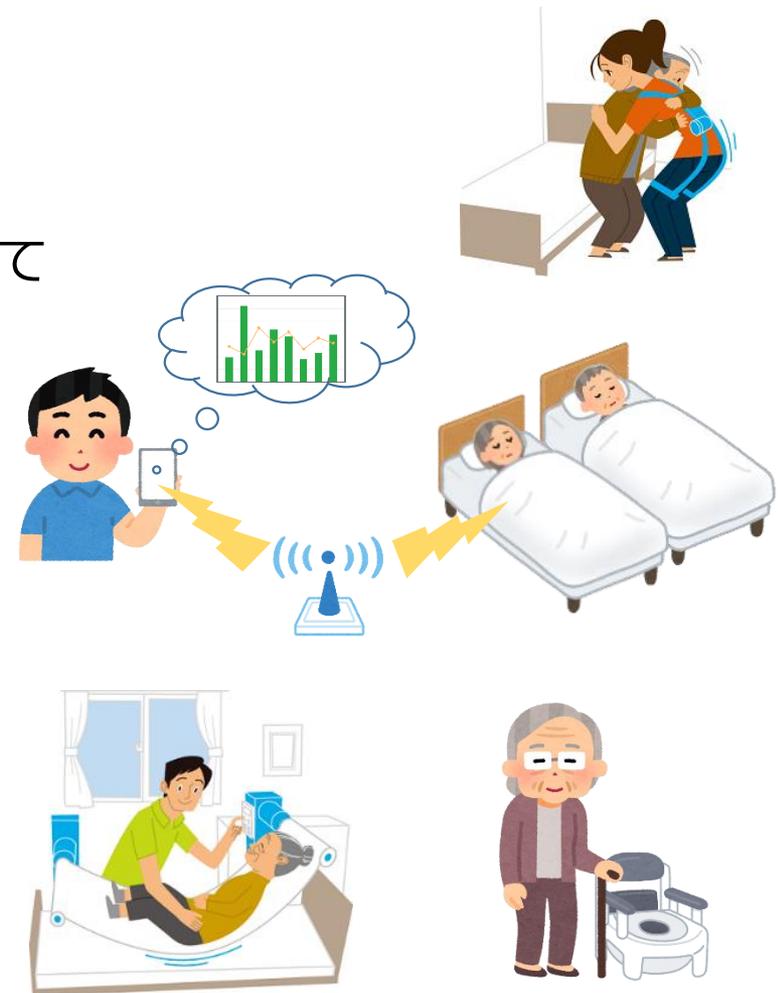
～ 支援業務の効率化と施設利用者のQOL向上に向けて ～



本誌では、これまで6回にわたり**デジタル機器の有用性**について知っていただくため、主として前年度の事業に参加した施設の取組内容を紹介してまいりました。最終回となる今号では、①成果報告会のご案内 ②今年度事業に参加したモデル施設の紹介 ③機器導入Q&A など主に今年度の取組内容を紹介いたします。

# 第7回のテーマ

- 1 令和3年度成果報告会の実施について
- 2 令和3年度参加施設・導入機器一覧
- 3 各施設の取組内容紹介
- 4 質疑応答集 (Q&A)
- 5 おわりに



# 1 令和3年度成果報告会の実施について

都の障害福祉関係施設や事業所の皆様に**機器導入の参考としていただくため、実際の導入事例や導入成果を報告**する成果報告会を以下の通り開催しますので、ご都合の許す限りご参加ください。

■ **開催日時** 令和4年3月18日（金）15時から18時まで（14時入室開始）

■ **開催形式** **開催形式** zoom（ウェビナー機能）による**オンライン開催**

※新型コロナウイルス感染症防止対策の観点からご理解賜りますようお願い申し上げます

■ **実施内容** **基調講演 「障害者施設のDXに向けて」 小林 宏気 氏**

**モデル施設による事例発表**

**モデル施設によるパネルディスカッション**

**質疑応答**

■ **申込対象** 都の障害福祉サービス関係施設・事業所

■ **定員** 先着1,000名（定員に達し次第、受付を終了いたします）

■ **申込方法** 以下の申し込みサイトより、お申し込みください。

[https://www.seedplanning.co.jp/event\\_manager/forms/index/116](https://www.seedplanning.co.jp/event_manager/forms/index/116)

※右のQRコードからもお申込みいただけます。



■ **申込期限** 令和4年3月11日（金）

■ **主催** 東京都福祉保健局障害者施策推進部

※本事業は、株式会社シード・プランニングへの委託により実施しています。

## 2 令和3年度参加施設一覧

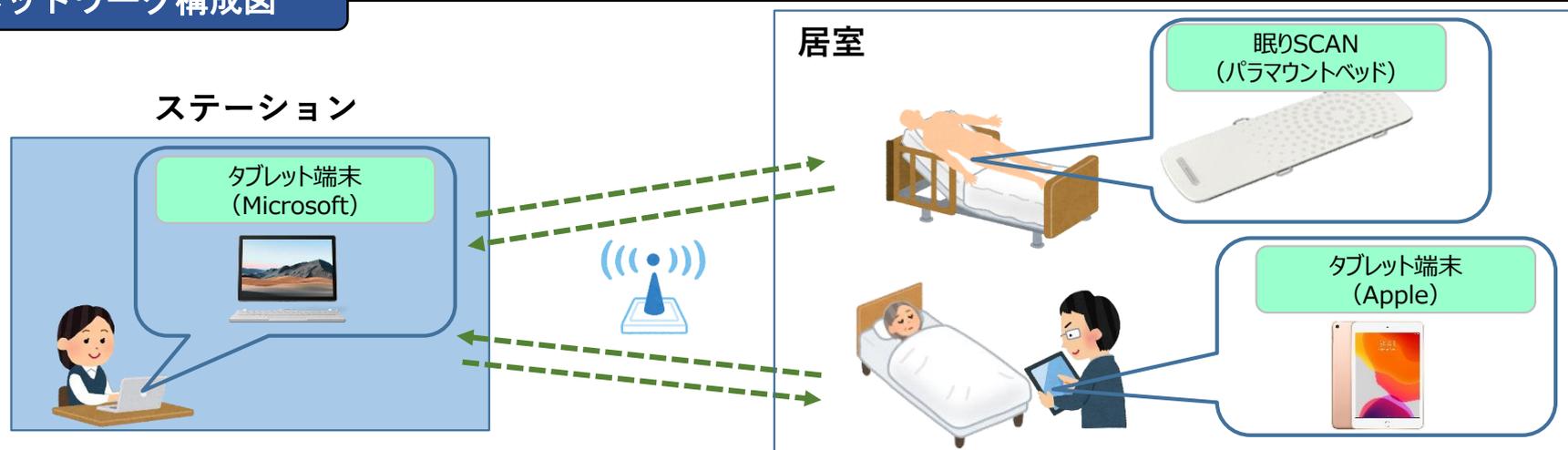
	モデル施設名	導入機器	メーカー名	台数
デジタル	社会福祉法人 同愛会 日の出福祉園	眠りSCAN	パラマウントベッド	40
		ブルーオーシャンノート	ブルーオーシャンシステム	1
		タブレット端末	Apple、Microsoft等	35
	社会福祉法人 いすず会 一之江あゆみの園	パルモビジョン	iSeeD	7
		パルモスマートインターフォン	iSeeD	4
		パルモバイタルケア	iSeeD	15
		おきるコール、ふむコール、ドアセンサー	iSeeD	11
		スマートフォン(インカム)	FCNT (Sony)	6(6)
	社会福祉法人 武蔵野会 リアン文京	Vital Beats (Care Patrol)	NDソフトウェア	20(1)
		VPドームカメラ	ALSOK	12
服やっくん		ノアコンツェル	1	
Care Palette (iPod)		NDソフトウェア (Apple)	70(70)	
ロボット	社会福祉法人 からし種 の会 緑の牧場学園	眠りSCAN (+eyeカメラ)	パラマウントベッド	25(3)
		A. I. Viewlife	エイ アイ ビューライフ	2
		ラップポン	日本セイフティー	2
		マッスルスーツEvery	イノフィス	2
	社会福祉法人 東京都社 会福祉事業団 日野療護園	OriHime	オリィ研究所	1
		OriHime eye+Switch	オリィ研究所	1
		タブレット端末	Apple	1
	社会福祉法人 徳心会 こぶしえん	眠りSCAN	パラマウントベッド	18
		OriHime	オリィ研究所	1

### 3 各施設の取組内容紹介① 日の出福祉園

#### 施設の課題

- ・入所者の重度高齢化が進み、**健康状態の把握や急変時の対応等の医療ニーズ**が高まると共に、**夜間転倒による怪我などのリスクが増加**している。
- ・また、支援記録や日誌、入居者の状態は園独自のExcelで管理しているが、各支援員室のパソコンで同時入力ができないとともに、手書きメモをExcelの表に転記する必要があるなど、非効率的である。

#### ネットワーク構成図



#### 導入後の変化

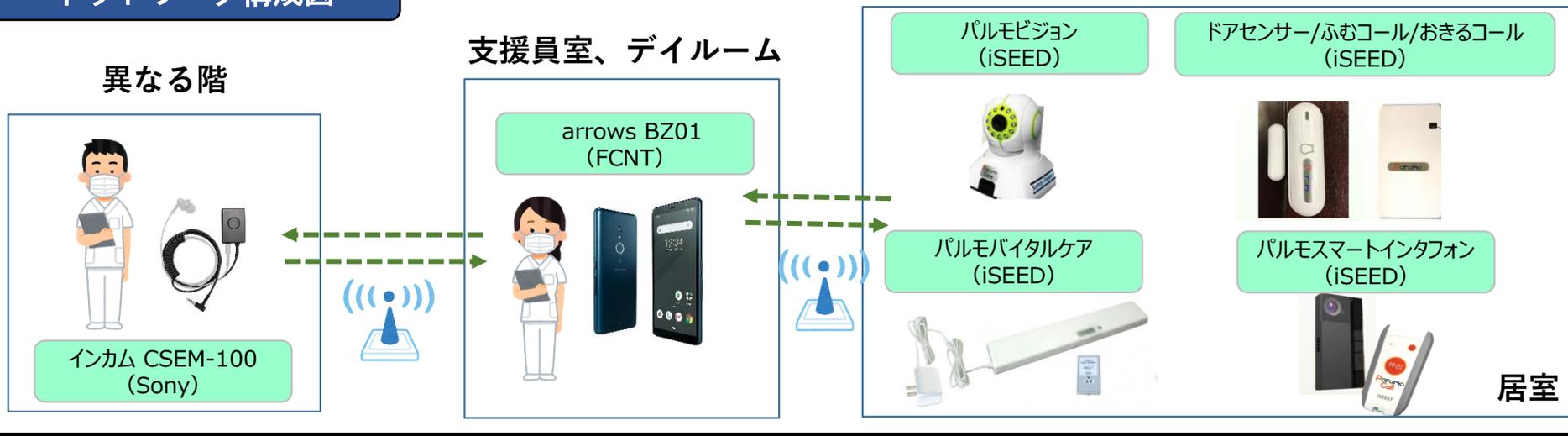
- ・睡眠センサーの導入により、**利用者の生活状況を可視化し**、通院時に睡眠センサーで得られたバイタルデータなどをもち出して医師への説明ができるようになり、医療連携が円滑化した。
- ・支援員は、利用者の睡眠状態を気にかけるなど、支援員の意識変化がみられる。
- ・機器導入を契機として、施設内の各棟で使用していた記録項目の統一化など、施設全体でプロジェクトチームが中心となって**支援業務効率化に向けた機運が醸成**された。

### 3 各施設の取組内容紹介② 一之江あゆみの園

#### 施設の課題

- ・夜間、利用者がコールボタンを押したりセンサーが鳴った場合に訪室しているが、職員配置が手薄い時間帯に、コールボタンが同時に押された場合、**部屋の状況が分からず訪室の優先順位が付けられない。**
- ・コールボタンを押す利用者や夜間、覚醒して頻回にトイレに行く利用者があり、**夜勤支援員の負担が重い。**

#### ネットワーク構成図



#### 導入後の変化

- ・スマートフォンに、呼び出しの通知や対応状況（対応中、対応済）、カメラの映像、インカムによる支援員間の連絡を集約し、居室の状況や他の職員の状況を的確に把握し、**優先順位をつけた対応**が可能となった。
- ・事故発生時の利用者の状況を映像で確認し、**事故の原因分析や再発防止策を具体的に検討**すると共に、ご家族にも事故の状況を正確に伝えることが可能となった。

### 3 各施設の取組内容紹介③ リアン文京

#### 施設の課題

- ・廊下等の一部死角で事故が発生した場合、推察により対応せざるを得ず、原因分析や家族説明ができない。
- ・利用者の頓服薬変更があった際、**頓服薬を忘れる事故**の発生が多い。
- ・利用者の情報を記録又は閲覧する端末が限られ、**支援記録の作成できる時間や場所が限られ**、支援記録の書き忘れや伝達洩れなど、支援員間の情報共有に課題があった。

#### ネットワーク構成図



#### 導入後の変化

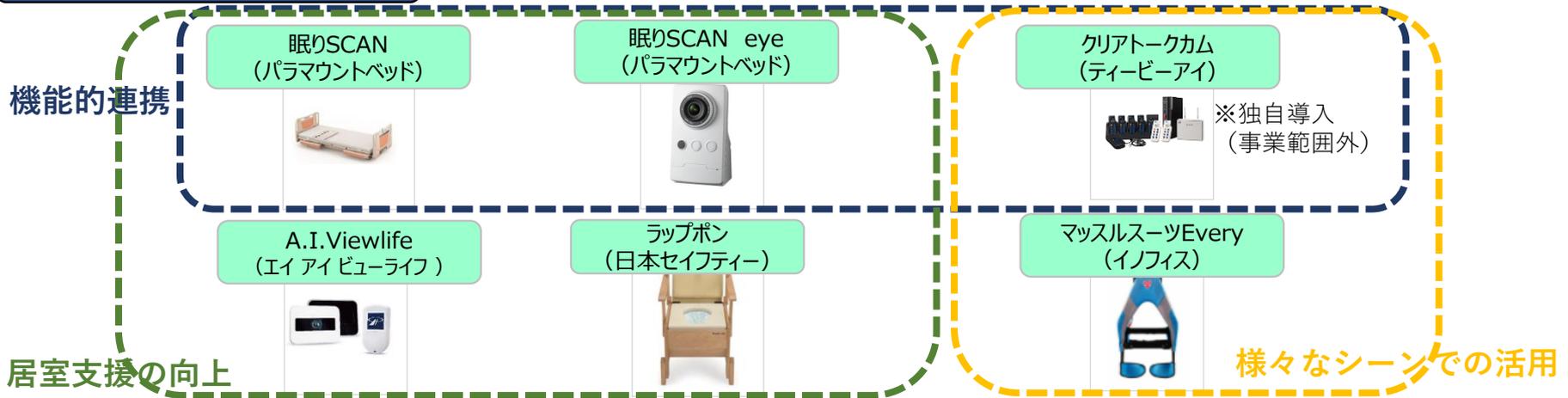
- ・VPドームカメラの導入により、映像で**事故の原因分析や再発防止策を検討**することが可能となった。
- ・服薬管理システムにより、**2人で対応していた服薬確認が1人で実施**できるようになった一方で、薬局との調整や利用者情報データの管理の手間が増えるなど課題のも残る。
- ・Vital Beats及びCare Patrolの導入により、居室内の利用者のバイタル状況や離床状況が一定程度確認できるようになった。一方、誤通知が多発するなど課題も多く、センサー感度の最適化など必要な調整を実施。

### 3 各施設の取組内容紹介④ 緑の牧場学園

#### 施設の課題

- ・利用者の重度高齢化により居室内の転倒事故が増え、**職員による見守り負担の増加**及び**訪室による睡眠妨害**が課題となっている。また、既存の見守りカメラは、利用者の**プライバシー保護**に課題がある。
- ・排泄支援が必要な利用者について、**トイレ誘導時の転倒リスク**及び**排泄後の臭い（衛生面）**が課題となっている。また、利用者の移乗支援等による**支援員の身体的負担（腰痛等）**が増加傾向にある。

#### ネットワーク構成図



#### 導入後の変化

- ・眠りSCANの導入により、**見守り支援の負担を軽減しつつ、訪室による睡眠妨害減らすことができた。**
- ・ラップポン設置により、**トイレ誘導が不用**になるとともに、排泄物を密封処理することで**臭いも軽減**した。
- ・アシストスーツ導入により、**入浴支援時の腰痛負担は軽減**しているが、着脱の煩わしさから**活用場面が限定的**となっていることが課題として残る。

### 3 各施設の取組内容紹介⑤ 日野療護園

#### 施設の課題

・利用者の重度・高齢化による介護量増加により、十分な**余暇支援ができず、利用者のQOLの維持及び向上が困難**になっている。

#### ネットワーク構成図



#### 導入後の変化

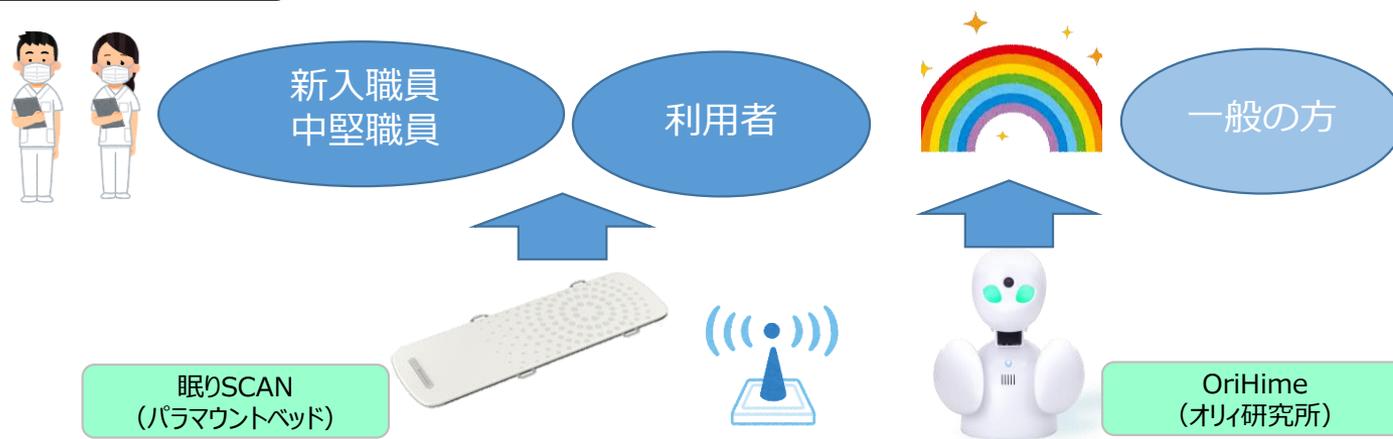
- ・利用者がOriHimeの操作に慣れるにつれ、OriHimeの操作支援が減り、またアルバイトや実習生等の活用も行い、**余暇支援にあたる支援員も少数で済むようになった。**
- ・OriHimeの活用にあたり、大学のゼミと連携して、学生と利用者がOriHimeを通じて交流、キャンパスの案内、動物園の散策等を行った他、近隣保育園との交流、他事業所との連携による野菜販売等、**新たな地域交流や余暇支援の機会を創出**できた。
- ・利用者もOriHimeの活用を楽しみにしており、OriHimeを使うことで**利用者の笑顔が増え、支援員のモチベーション向上につながっている。**

### 3 各施設の取組内容紹介⑥ こぶしえん

#### 施設の課題

- ・開設したばかりの施設であり、利用者支援に精通した支援員が限られており、**支援方法の一部は試行錯誤しながら決めているため非効率な部分がある。**
- ・入所者の中には、長年在宅で過ごされており、部屋に引きこもりがちな利用者があるため、どのように日中活動に参加していただくかが課題となっている。

#### ネットワーク構成図



#### 導入後の変化

- ・眠りSCANの導入により、**夜間、利用者が覚醒したタイミングで排泄介助や起床介助に入る**など、利用者の睡眠を確保しつつ、支援員室から利用者の状態を確認することが可能となり、**支援業務が効率化**した。
- ・部屋に引きこもっている利用者 OriHime を操作してもらい、**日中活動に OriHime を通じて参加**してもらうことで、徐々に他の利用者との人間関係を構築するなど、施設の雰囲気慣れていただいている。
- ・感染症の収束後を見据え、**利用者と地域住民の交流活性化**に向けて地域交流スペースでの活用も検討

## 4 質疑応答集 (Q & A)

### 質問

### 回答

現場支援員が高齢化し、機器の導入に前向きではなく、機器を導入しても使いこなせるか心配です。

・機器導入に当たっては、現場支援員の機器導入に対する理解と意識改革が必要です。  
・管理者、サービス管理責任者、専門職等に加え、**機器に慣れている若手支援員を中心としたPTを構成**し、施設内の課題や導入機器の検討をし、機器導入後に支援員同士でフォローできる体制の構築が有効です。

福祉施設では**機器に対する専門的知識**に乏しく、ベンダーの都合で価格や導入機器を勝手に決められてしまわないか。

・機器に対する知識が不足していると不必要な機器を導入してしまったり、導入後に使われなまま放置してしまうリスクがあります。  
・上述のPTなどによって**施設内の課題を整理した上で、どの機器を導入すれば良いのか、機器の機能などを勉強する必要があります**。  
・最低限の知識があれば、ベンダーとなる業者は、施設のコンサルとして良きパートナーになります。

機器を導入したとしても**ランニングコスト**やすぐに新しいものが出てきて使えなくなってしまうのではないかと不安です。

・機器によっては月又は年単位でランニングコストが発生するものもあるため、**事前にメーカーに確認**する必要があります。  
・デジタル機器は徐々にバージョンアップして機能の追加や改善がなされますが、すぐに使えなくなることは滅多にありません。  
・モデルチェンジ前の機器は安く購入できることもあるため、価格や機能などをメーカーに確認する必要があります。

見守りセンサーが便利であることは理解できますが、個人情報や**プライバシーへの配慮**の観点から導入に不安があります。

・見守り支援機器は、主として利用者さんの心拍離床状況を支援員が常時確認できることで、**利用者さんの安全確保を目的に導入**する機器です。  
・**機器導入の趣旨や意義を丁寧に説明**するなど、利用者、家族及び支援員間での理解と合意が必要になります。  
・特に利用者さんやご家族には個人情報の取扱いに関する同意書にサインをいただくなど、書面でも合意しておくことで安心です。

## 5 おわりに

- ・本誌では、全7回にわたり障害者支援施設デジタル技術等活用支援モデル事業におけるモデル施設の導入事例を紹介させていただきましたが、ここまで本誌をお読みいただいた皆様方に感謝申し上げます。
- ・最後に、デジタル機器導入のポイントを以下の通りまとめましたので、参考にいただければ幸いです。

### 機器導入のポイント

#### ① 事前準備

- ・プロジェクトチーム（管理者、サビ管、支援員、専門職等、幅広い職員で構成）の発足
- ・上記PTによる、課題の抽出及び課題の解決に適した導入機器の検討、使用場面の設定
- ・導入機器に合わせた支援方法（オペレーション）の見直し
- ・機器導入前の事前調整（利用者又は保護者からの同意、機器導入により影響のある関係機関との調整）
- ・導入前調査及び試行（施設内の通信環境調査及び試用機の試行的導入による検証）
- ・施設内周知（マニュアルの整備など）

#### ② 機器導入

- ・都への補助申請及び交付決定（都の補助金を活用する場合）
- ・メーカーと機器購入契約の締結
- ・Wi-Fi工事日、納期、設置場所の調整

#### ③ 機器の活用及び確認

- ・機器に不慣れな支援員に対するアフターフォロー
- ・機器から得られるバイタルデータ等の活用（医療連携、日中活動内容の見直しなど）
- ・記録支援システムとの連携（機器と記録支援ソフトが連携している場合）

#### ④ 活用方法の見直し再検討

- ・センサー系機器の誤通知、誤検知への対応
- ⇒利用者の状況に応じたセンサー感度の再設定及び使用時間の再検討（必要に応じてメーカーとも相談）
- ・支援方法、体制（オペレーション）の最適化